

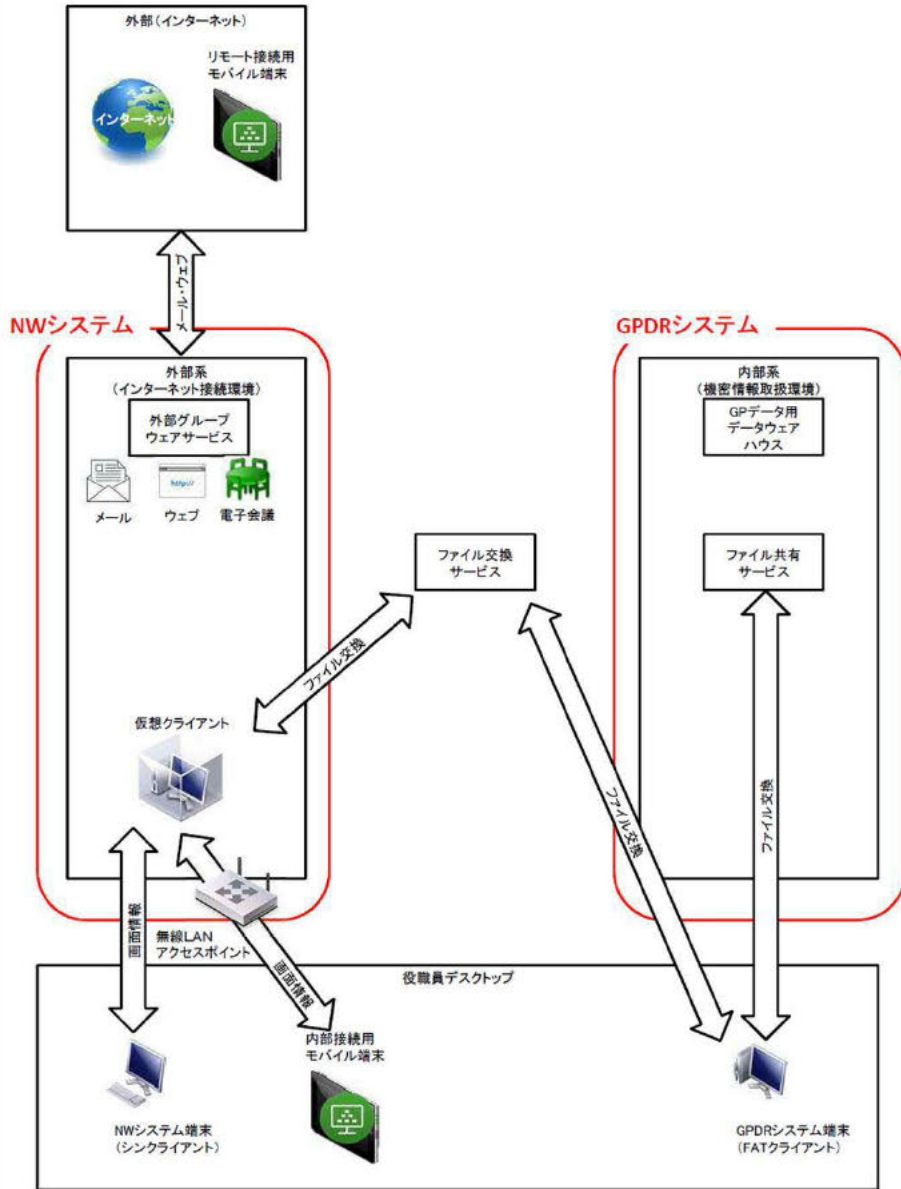
システム更改方針について

区分	報告	対象範囲	法人全体及び業務委託先等
<p>エグゼクティブサマリー</p> <p>現行システムの運用保守期間満了に伴うシステム更改の方針について報告するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> NWシステム及びGDPRシステムの機能を一体的に運用する、統合ネットワーク環境を構築し、2019年12月末に移行完了する。 情報管理部内にプロジェクトを立ち上げ、推進のための支援業務委託先としてTIS株式会社を選定。 統合ネットワーク構築後、外部運用委託先の監視や評価能力向上のため、運用機関やグローバルキャストディアンから直接データを収集する「速報データ参照サービス」の導入を検討している。 			
<p>バックグラウンド</p> <p>2019年3月にNWシステムが、2020年3月にGDPRシステムが運用保守期間満了。</p> <p>各々独立したネットワークとして構築されていることに起因する、業務利用上及びシステム運用上の課題があった。</p>		<p>フィードバック期間及び検証方法</p> <p>—</p> <p>便益及びリスク</p> <p>【便益】 利便性向上及び運用保守工数の低減 【リスク】 統合ネットワーク稼働におけるスケジュール遅延</p>	
<p>戦略プラン</p> <p>NWシステムの運用保守期間を延長し、GDPRシステムと一体的に更改する。論理的に分離した内部領域と外部領域を有する統合ネットワークを構築し、内部領域の機密情報を守りつつ、外部領域にてインターネット上のサービスを利用可能とする。なおGDPRアプリケーションはネットワーク部分とは切り離し、引き続き稼働させ、次期中期目標期間において抜本的な更改を行う。</p>		<p>K P I</p> <p>—</p> <p>予算及び予算計画への影響</p> <p>要件定義、仕様策定時に改めて精査。 現行システムに係る概算費用は別紙のとおり。</p>	

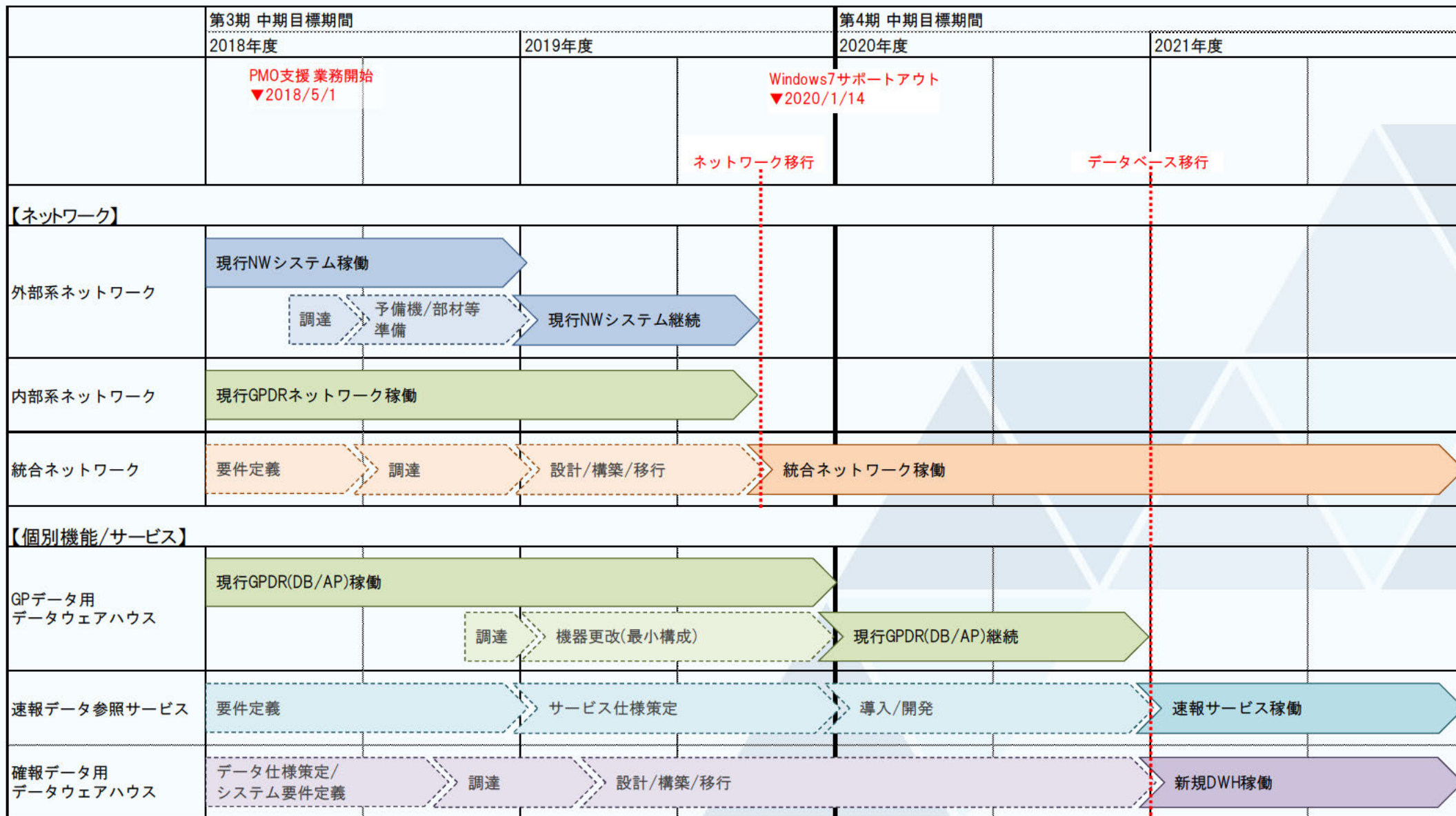
システム更改のイメージ

統合ネットワークイメージ(AsIs)

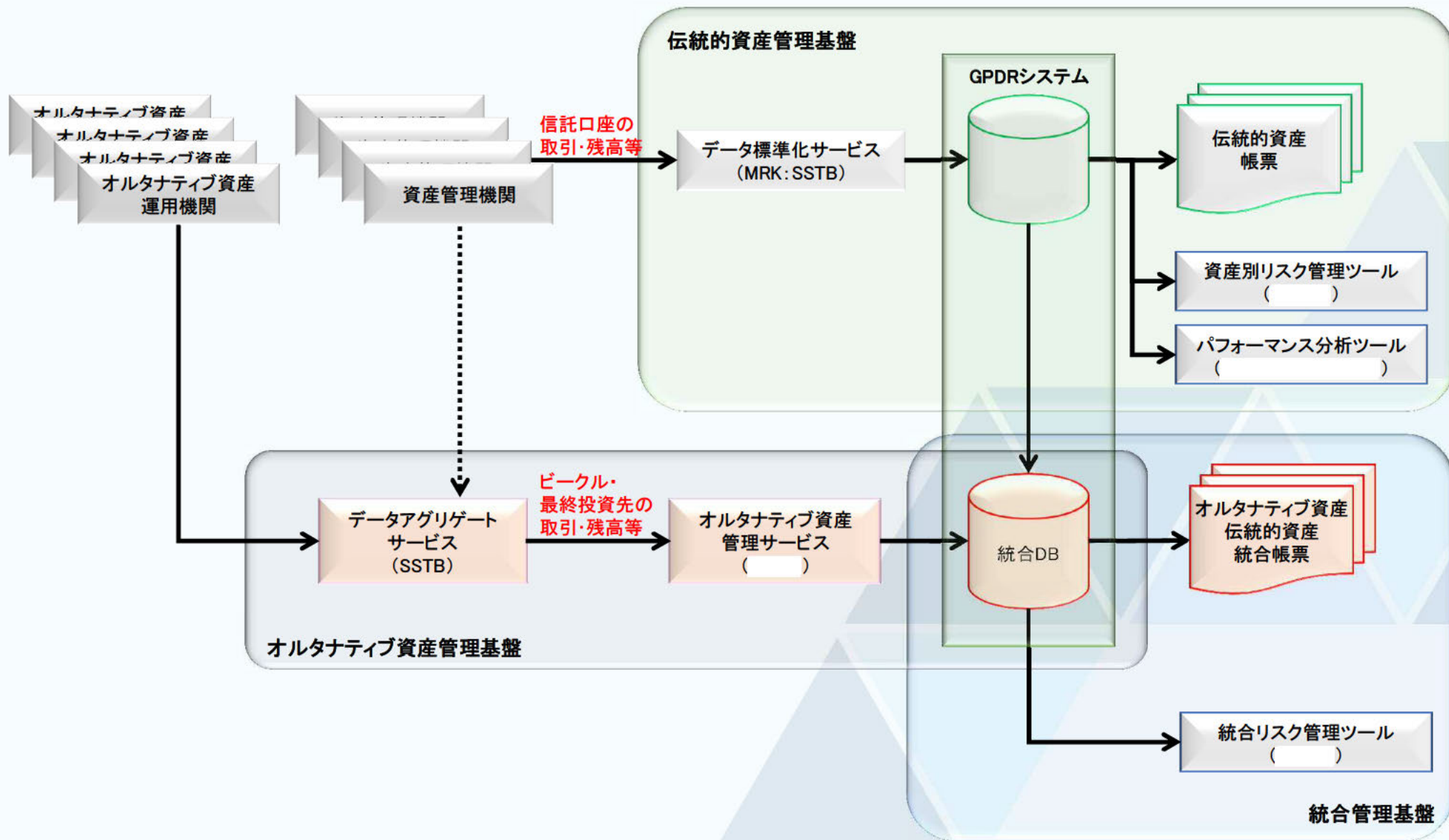
統合ネットワークイメージ(ToBe)



システム更改スケジュール



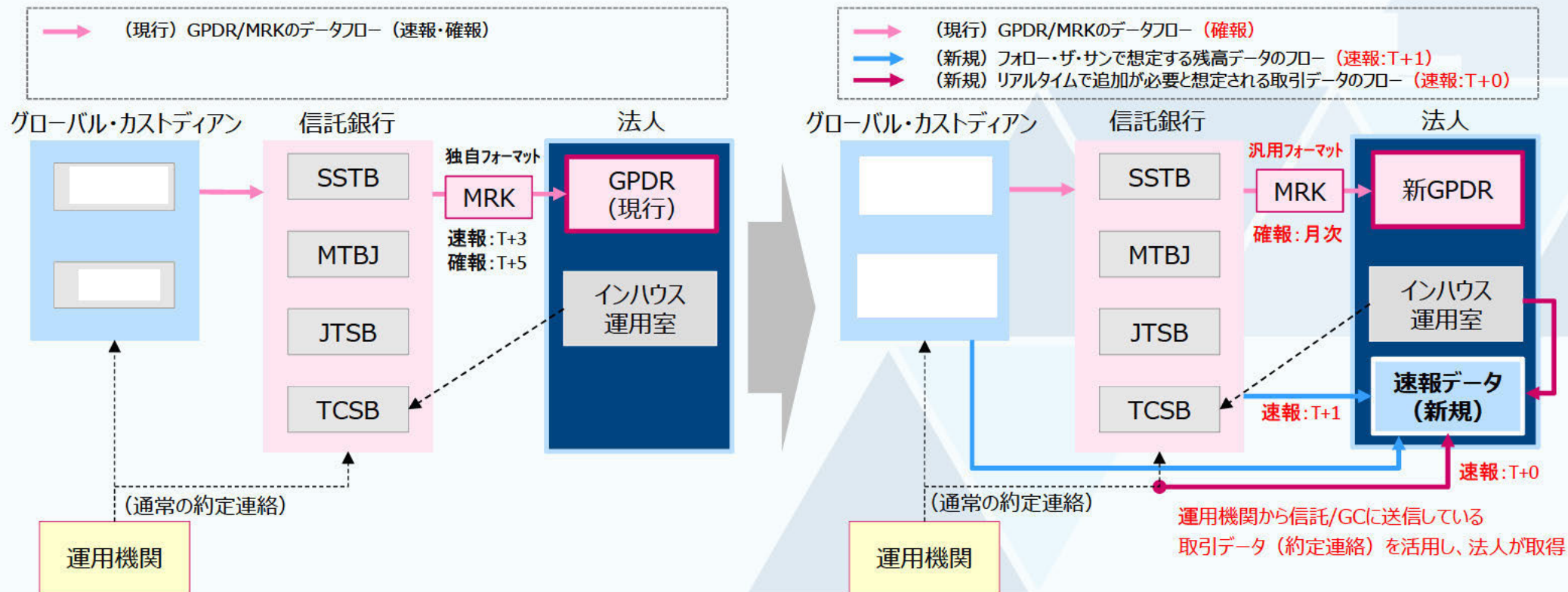
運用資産管理に係る現状のデータフロー



運用資産管理データの見直し

- 現行の課題を解消すべく、投資意思決定補助のための「速報データ」を導入し、会計・ディスクロのための「確報データ」とは機能を分離
- 「速報データ」は運用機関から、「確報データ」は信託銀行から収集する方向で検討

現状：課題認識	原因分析	将来：解決策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな運用資産への対応に時間がかかる ・ データ収集に時間がかかる (T+3~T+5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自フォーマット (GPデータ仕様) 対応のための信託、MRK、GPDRの開発負荷 ・ 信託での会計処理を待つ必要性 ・ モニタリングから会計まで全てに対応可能なデータフォーマット 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汎用的なデータフォーマットを利用 ・ 運用機関から直接データを収集 (T+0~T+1) ・ 運用機関の開発負荷軽減のためカस्टディへの約定連絡データを利用 ・ 利用目的ごとに収集するデータを分離



<参考> 現行システムの稼働費用（実績ベース）

システム更改及び更改後稼働に係る費用については、要件定義前であることから算出は困難であるため、参考として、現行システムにおいてこれまで発生した主な費用を以下に示す。

GPDRシステム

項目	費用
設計開発	億円
機器調達	億円
アプリケーション保守	億円
システム運用	億円
合計	34.0億円

設計開発は、当初導入に係る経費、稼働後の追加開発経費及び基盤更改に伴うアプリケーション等移行経費を計上。

アプリケーション保守及びシステム運用に係る経費は、平成27～31年度における契約額を計上。

NWシステム

項目	費用
構築・保守運用	億円
基盤増強・機能追加導入	億円
セキュリティ対策	億円
合計	7.0億円

構築・保守運用は、平成26～30年度における契約額を計上。